

## 2006 年広島市におけるエコーウイルス 18 型の流行について

山本美和子 野田 衛<sup>\*1</sup> 伊藤 文明 池田 義文  
松本 勝<sup>\*2</sup>

## はじめに

エコーウイルス（以下 Echo という。）はピコルナウイルス科エンテロウイルス属に属し，夏風邪や無菌性髄膜炎の原因ウイルスとして主に夏期に流行するといわれる。比較的単純な構造をしているが抗原性が変化しやすいため，同じ型でも感染を繰り返すものもある。シーズンごとにその流行は違うが，2006 年夏期に広島市感染症発生動向調査により検査した患者の検体からは Echo 18 型が多く検出され，国立感染症情報センターのウイルス検出情報<sup>1)</sup>から全国的に流行していることが示唆された。そこで今回，広島市感染症発生動向調査により検出された Echo 18 型についてまとめたので報告する。

## 方 法

2006 年 1 月から 12 月までに広島市感染症発生動向調査事業の検査定点を受診した患者 829 人から採取された咽頭拭い液，髄液，糞便，尿など 1132 検体を検査材料とした。

ウイルス分離は細胞培養法により行った。使用した培養細胞は HE，HEp-2，RD-18S，Vero を用いた。同定は市販（デンカ生研）の抗血清を用い，マイクロ中和法により行った。

## 結 果 と 考 察

広島市感染症発生動向調査に基づき検査した患者 829 人 1132 検体から 385 株のウイルスが分離さ

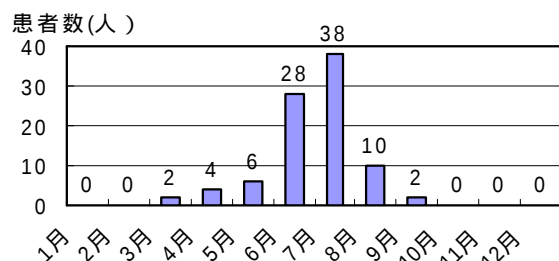


図 1 月別患者数

\*1：現 国立医薬品食品衛生研究所

\*2：退職

表 1 臨床診断名別 Echo18 型検出患者数

| 臨床診断名     | ウイルス検出数 |
|-----------|---------|
| 無菌性髄膜炎    | 48      |
| 咽頭結膜炎     | 4       |
| 感染性胃腸炎    | 2       |
| 川崎病       | 2       |
| 水痘        | 1       |
| その他の呼吸器疾患 | 10      |
| その他の消化器疾患 | 2       |
| その他の発疹性疾患 | 1       |
| その他       | 20      |
| 計         | 90      |

れ，そのうち Echo 18 型は 133 株(34.5%)分離された。

## 1 月別検出状況

2006 年の月別の Echo18 型検出数を図 1 に示した。

3 月から検出されはじめ，10 月まで検出された。6 月は 28 株，7 月は 38 株検出され，この 2 か月間に最も多かった。

## 2 臨床診断名別患者数

2006 年の臨床診断名別 Echo18 型の検出数を表 1 に示した。最も多く検出されたのは無菌性髄膜炎で 48 人(53.3%)であった。

## 3 臨床症状

Echo18 型が検出された患者の臨床症状を図 2 に示した。90 人の患者のうちほとんどの患者の 84 人(93.3%)に発熱があった。髄膜炎を起こしている患者は 48 人(53.3%)であった。その他呼吸器症状，胃腸炎，発疹を呈している患者もいた。

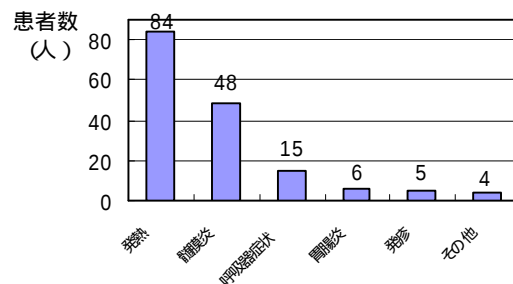


図 2 Echo18 型検出患者の臨床症状

## 4 検体別 Echo18 型検出状況

2006 年の Echo18 型が検出された患者由来の検体別検出状況を表 2 に示した。糞便 51 検体中 49 検体 (96.0%)、髄液 56 検体中 39 検体 (69.6%)、咽頭拭い液 73 検体中 (61.6%) 45 検体から検出した。尿については、2 検体検査し、検出されなかった。

## 5 過去 10 年間の広島市における Echo 検出状況

1997 年から 2006 年までの Echo 検出数を表 3 に示した。1997 年および 98 年は 30 型、2001 年は 11 型、2002 年は 13 型、2006 年は 18 型が主に流行した。

## ま と め

2006 年に検出された Echo18 型は 90 人 133 株であった。1997 年からの年次別検出数を見ると、Echo18 型は数年おきに小さな流行があり、2006 年は大きな流行年であった。3 月ごろより検出され、初夏に流行のピークがあった。エンテロウイルスの大流行は毎年ではないが、2～3 年ご

表 2 検体別検出数

|       | 糞便 | 咽頭拭<br>い液 | 髄液 | 尿 | 計   |
|-------|----|-----------|----|---|-----|
| 陽性検体数 | 49 | 45        | 39 | 2 | 135 |
| 検査検体数 | 51 | 73        | 56 | 2 | 182 |

とに流行を繰り返している。患者のほとんどが発熱を呈し、約半数に髄膜炎症状がある、小児にとって重篤な症状である。Echo18 型が検出された患者の糞便検体からも 96%と高率に検出されることから、糞便を介しての感染に注意が必要と考えられる。流行を感知し、医療機関やホームページ上などで情報のフィードバックを行うことにより、流行を抑えることも可能であると思われる。

## 文 献

- 1) 感染症情報センターホームページ：病原微生物検出情報, <http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>

表 3 過去 10 年間の年次別エコーウイルス検出数

| エコーウイルス型 | 1997 | 1998 | 1999 | 2000 | 2001 | 2002 | 2003 | 2004 | 2005 | 2006 |
|----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 3 型      |      |      |      | 7    |      |      |      | 1    | 1    |      |
| 4 型      |      |      | 1    |      |      |      |      | 1    |      |      |
| 5 型      | 1    |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 6 型      | 1    |      | 3    | 3    |      |      |      | 34   | 1    |      |
| 7 型      |      |      |      |      |      |      | 5    |      |      |      |
| 9 型      | 29   | 1    |      | 13   |      | 4    | 7    |      |      | 1    |
| 11 型     | 1    | 6    |      |      | 33   |      |      |      |      |      |
| 12 型     |      |      |      |      | 1    |      |      |      |      |      |
| 13 型     |      |      |      |      |      |      | 183  |      |      |      |
| 14 型     |      |      | 1    |      | 1    |      |      |      | 1    |      |
| 16 型     |      | 3    |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 17 型     |      | 43   |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 18 型     | 3    | 7    | 14   |      |      |      |      | 9    | 4    | 90   |
| 19 型     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 24 型     |      | 1    |      |      |      |      | 1    |      |      |      |
| 25 型     | 1    | 1    |      | 4    |      | 1    | 1    |      |      |      |
| 30 型     | 52   | 156  | 2    |      |      | 1    | 22   |      |      |      |